

平成20年度 玄海町立仮屋小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	
「豊かな心を持ち、自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する児童の育成」	
2 学校経営ビジョン	
(めざす学校像) 1, 楽しい学校...児童も教師も生き生きとして通う学校 2, 伸びる学校...児童も教師も成長する学校 3, 美しい学校...美しく清潔感のある学校	(めざす児童像) 1, 体を鍛え、健康で明るい子ども 2, 分かって自ら進んで学ぶ子ども 3, 優しく礼儀正しい子ども
(めざす教師像) 1, 子どもを愛する教師 2, 豊かな人間性を持つ教師 3, 規律を保持し、信頼を得る教師	からだをきたえよう りこうな子どもになるよう やさしい心をそだてよう

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1)「確かな学力の向上を図る」ために、基礎基本の定着を図る指導方法の工夫改善を行うとともに、家庭との連携を密にして家庭学習を習慣化する。また、校内研究に努め、児童のコミュニケーション力を高める。 (2)「豊かな心を育てる」ために、元気なあいさつと返事を年間重点目標とし、思いやりの心を育てる道徳の指導充実を図る。また、学級活動や縦割り活動等を通して集団帰属意識を高める。 (3)「たくましい体を育てる」ために、『早寝・早起き・朝ご飯』を徹底させ、基本的な生活習慣を身につけさせる。また、外遊びを奨励し、体力の向上を図る。	昨年度まで2年間、校内研究は「金銭教育」をテーマとし、研究目標としていた「勤労の尊さ」「健全な金銭感覚」「(生活の中で)生かす」に迫ることができた。また、授業の工夫を通して授業の焦点化や効果的な指導のあり方についても授業の力を高めることができた。 CRT検査の結果、Cの段階の児童を全国水準より減らすことができた。これは児童一人一人に適切な指導を重ねてきた結果である。更にチャレンジタイムの内容の工夫・充実を図るなどして、各学年の到達度を全国得点に近づけた。 英語活動の実践交流は不十分であったが、担任とALT、英語活動担当者等との打ち合わせを綿密に行い英語活動の充実にも努めた。その結果英語活動に関する児童の関心・意欲が高まった。 基本的な生活習慣の定着のために「健康とくらしチェックカード」を活用することで保護者との連携を図ることができた。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由
学校運営	学校経営方針	学校教育目標の周知及び活用	教職員、児童、保護者に周知する。重点目標の認知度を70%以上にする。	A 学校評価得点が児童86.8、保護者81.5となり、目標値を超えている。学校便りや育友会役員会等で随時説明することができた。
	開かれた学校づくり	保護者、地域への情報発信と人材活用による開かれた学校づくりの推進	授業参観日や学校行事への保護者出席を80%以上にする。 「ふれあいの日」等を設定し、地域の方の学校訪問の機会を増やす。	A 授業参観日や学校行事への保護者出席率は80.8%で目標値を超えた。学校便りは月平均2回発行することができた。
	校種間の連携	保・小・中の連携	保育園と小学校の連絡会を実施し、課題について共通理解をする。小学校と中学校との情報交換をいろいろな機会を通して行う。	B 保育園や中学校との連絡会は、2回実施されたが、十分ではなかった。英語活動に関して中学校の英語教諭にも授業を見てもらったり、助言をもらった。
	危機管理体制	危機管理マニュアルの周知徹底 緊急時の連絡体制の確立	危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 危機管理に関する校内研修を学期に1回以上行う。 避難訓練を各1回実施する。 定期かつ臨時の安全点検を実施し、児童の安全確保に努める。	B 交通安全教室や防犯教室は外部講師に指導をしてもらい、児童の意識が高まった。避難訓練は3回実施し、校内研修の充実ができなかった。
	教職員の資質の向上	職員研修の充実(校内研究・教育相談・危機管理・その他)	全員授業公開を行う。 各種職員研修を充実する。 児童の実態に応じた授業研究と理論研究を行う。 一人1回以上は研究会に参加する。	A 全員授業公開をすることができた。教育委センター講座の受講を積極的に行った。夏期休業中の校内研修に外部講師を招聘し実施することができた。
教育活動	学力向上	基礎・基本の指導の徹底 家庭学習のすすめと定着	CRT学力検査(国語・算数)においてCの段階を児童を全国水準より減らす。学年に応じた家庭学習の習慣の定着を図る。	B 地区基礎学力テストで合格率が向上した。家庭学習はチェックカードによると平均4.7のポイントを示し、定着してきている。
		「話す力」「聴く力」の向上	「授業に集中する児童」学校評価得点(教師)を62以上にする。	B 学校評価得点(教師)は63.3で目標を達成したが、話す力が十分についていない。
	読書活動	学校図書室の活性化と読書活動の充実	全校「朝読書」に努め、学年に応じた図書に親しませる。 年間個人図書貸出し冊数を低学年50冊以上、中学年60冊以上、高学年70冊以上にする。	A 一人あたりの貸し出し冊数が2月末で低学年64冊、中学年101冊、高学年71冊となり、目標を達成した。

	心の教育	道徳の時間、人権・同和教育の充実、学級活動の充実	『いじめ』のない学級の評価得点(児童)を80以上にする。 人権や命にかかわる授業づくりを行う。 保護者が参観、参加する道徳の授業を年1回以上実施する。	B	学校評価得点(児童)は81.0で目標値を超えたが、日常の生活の中で相手を思いやる態度が十分に育っていない。
		教育相談の充実	児童の相談に適切に対応する。 子どもの安心安全な居場所づくりに努める。 保護者から相談しやすい雰囲気づくりに努める。	B	子どものつづやきを大切にできたが、相談を受けて解決するまでの体制が不十分だった。
	英語活動	英語活動の充実	英語活動の学校評価得点(職員)を81以上にする。	A	学校評価得点(職員)は96.7で目標値を十分達成した。ALTと打ち合わせの中で、職員に英語活動に取り組む自信と意欲が高まった。
	健康・体づくり	歯磨きの習慣化と食育の充実 外遊びの奨励	食後の歯磨きの習慣化と食事の好き嫌いを減らす。 食育の授業を年間1回実施する。 元気に外で遊ぶ。	B	食育は栄養教諭の活用や委員会活動でも取り組んだが、個人的な好き嫌いを改善するまでにいたっていない。
	生徒指導	年間重点指導「元気にあいさつ・返事」の徹底	あいさつや返事が元気にできている学校評価得点(児童)を70以上にする。	B	学校評価得点(児童)は79.3で目標値を超えたが、全児童の意識付けにはいたっていない。
		清掃指導の充実	「清掃指導」の学校評価得点(職員)を72以上にする。	A	学校評価得点が、職員79.5となり、目標値を超えた。
	校内の環境美化・ 教室環境づくり	花いっぱい活動の充実 教室環境の整備 ゴミのない学校	全校児童が一年を通じ、植物の栽培をする。 ゴミのない美しい学校をめざす。 「教室環境づくり、校内環境づくり」に対する学校評価得点(児童)を78以上にする。	B	学校評価得点(児童)は84.3で目標値を超えたが、お菓子の袋などのゴミが目立った。
特定課題	小学校低学年の 学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の定着	時間を守る。 元気の良いあいさつ・返事をする。 教師や友だちの話をしっかり聞く。 家庭学習を習慣化し、宿題をきちんとする。 学習用具の準備等を徹底する。	B	目標は指導計画に沿っておおむね達成できたが、一部周知徹底ができなかった。
	基本的生活習慣	基本的習慣の定着	早寝・早起き・朝ご飯を徹底する。 ゲームとテレビの時間の約束を守らせる。 保護者からの働きかけの学校評価得点を70以上にする。	B	学校評価得点(保護者)は73.1で目標に到達したが、早寝・早起きが十分に定着していない。

6 総合評価

校内研修に外部からの講師を招き研修内容の充実を図ったり、教育センター講座を積極的に受講したことで、教職員一人一人の研修意欲が向上した。

チャレンジタイムを有効に活用したり、個別指導の充実を図ってきたことで、基礎学力が向上してきた。しかし、活用する力が不足している。全教科・領域で言語活動の充実を図るなどして活用する力をつけさせたい。

英語活動について外部講師から指導を受けたり、指導内容をALTと密に打ち合わせを行ったりしたことで、教師の指導力向上につながり学校評価得点(児童)が95.0となるなど充実した英語活動が実践できた。

「健康とくらしチェックカード」の取り組みで、朝食・家庭学習など定着した。また、家庭との連携により基本的生活習慣も向上しつつある。

7 来年度の改善策

・校内研修の充実を図り、教師の指導力向上に努めるとともに、県・国の学力状況調査や校内学力検査などの結果分析を十分行い、指導に生かす。

・小規模校の利点を生かし、授業や行事の中で子どもたち自身の出番をさらに増やすことで、やる気と自信をつけさせたい。

・授業参観の充実を図ったり、学校の情報を積極的に公開したりすることで、保護者や地域に開かれた学校づくりを推進していく。

・学校と保護者・地域がさらに連携し、閉校に向けた思いづくりをするとともに、統合への意欲を高める。(平成22年3月末閉校、4月統合し新校へ)